

下の歯だけ矯正できる？マウスピース矯正の費用・期間・適応条件



【記事本文の概算文字数】

約5,000字（項目一覧・参考資料・監修者情報・公開前確認を除く）

【項目と目安文字数】

- 導入文：約230字
- 最初の結論：約280字
- 下の歯だけの矯正とは：約410字
- 向いている人・向いていない人・セルフチェック：約720字
- 費用の目安：約620字
- 治療期間と通院回数：約280字
- メリット：約220字
- デメリット・注意点：約560字
- 治療の流れ：約440字
- よくある質問：約650字
- まとめ：約220字

【導入文】

「下の前歯まわりのガタガタだけが気になるものの、全体矯正までは考えていない」という方は少なくありません。下の歯だけをマウスピースで整えられるのであれば、治療期間や費用を抑えられるのではないかと考える方もいるでしょう。

下の歯だけのマウスピース矯正は、歯並びや噛み合わせの条件が合えば可能です。ただし、見た目だけで適応を判断することはできません。この記事では、下の歯だけの矯正が向いているケース、費用と期間の目安、治療前に確認しておきたい注意点について解説します。

【最初の結論】

下の歯だけをマウスピースで部分的に矯正できる場合があります。対象になりやすいのは、奥歯の噛み合わせに大きな問題がなく、下の前歯にある軽度のガタガタやすき間を整えるケースです。

一方、上下の噛み合わせにズレがある場合、骨格的な出っ歯や受け口がある場合、歯を並べるスペースが大きく不足している場合には、下の歯だけではなく上下の歯を動かす全体矯正が必要になることがあります。

費用や期間は、動かす歯の本数、移動量、使用する装置によって異なります。ご自身の歯並びが部分矯正に適しているかどうかは、歯科医師による噛み合わせの確認と精密検査を受けたいうえで判断することが大切です。

【下の歯だけの矯正とは】

下の歯だけを対象にした矯正は、一般的に「部分矯正」や「MTM(Minor Tooth Movement)」と呼ばれます。前歯まわりなど、気になる範囲に限定して歯を動かす治療です。

上下すべての歯を対象にして噛み合わせ全体を整える「全体矯正」と比べると、部分矯正は動かす歯の本数や範囲が少なくなります。そのため、治療期間や費用を抑えやすい一方、対応できる歯並びは限られます。

部分矯正では、現在の奥歯の噛み合わせを基本的に維持しながら、前歯の軽いガタつきやすき間などを整えます。奥歯の噛み合わせに前後・左右のズレがある場合や、上下の歯の位置関係を大きく変える必要がある場合には、部分矯正だけで対応することは困難です。

マウスピース矯正は、透明な装置を段階的に交換しながら歯を少しずつ動かす方法です。食事や歯磨きの際に取り外せるため、日常生活への影響を抑えやすい特徴があります。ただし、計画どおりに歯を動かすには、歯科医師から指示された装着時間を守る必要があります。

【下の歯だけのマウスピース矯正が向いている人】

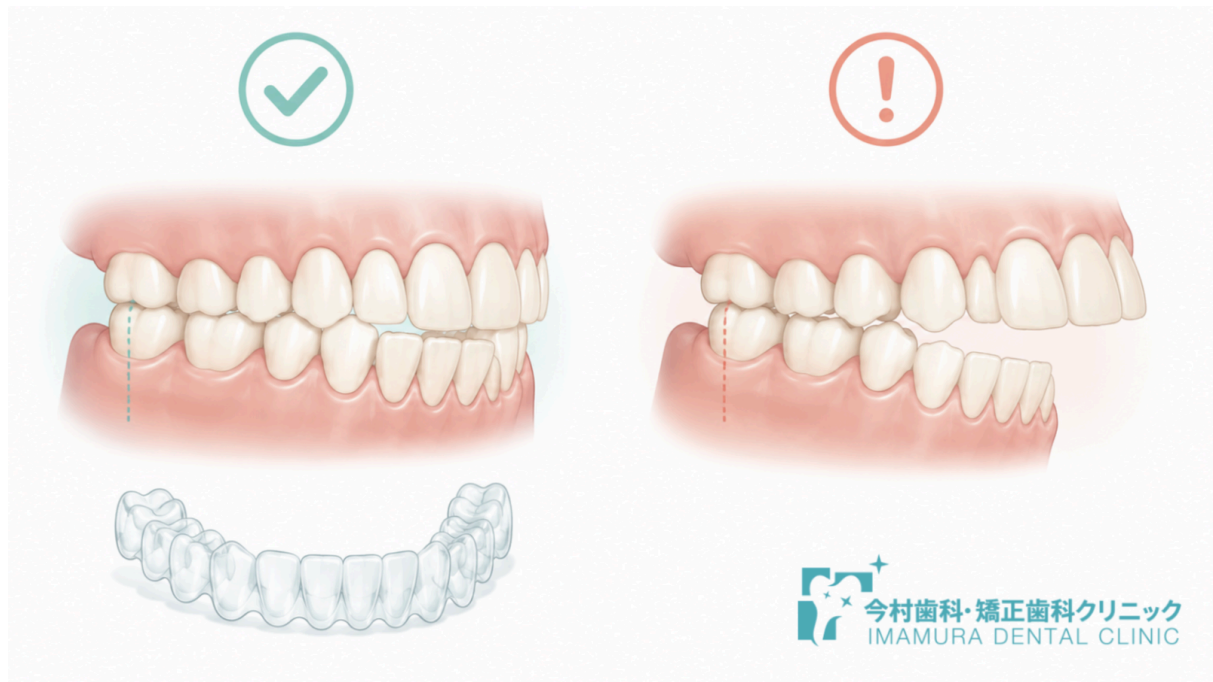


下の歯だけの部分矯正は、一般的に次のようなケースで検討されます。

- 奥歯の噛み合わせに大きな問題がない
- 下の前歯に軽いガタガタがある
- 下の前歯の小さなすき間が気になる
- 動かしたい歯の本数や移動量が少ない
- 抜歯が必要になるほど歯の重なりが強くない
- 過去の矯正治療後に、一部の歯だけが後戻りしている

見た目では前歯だけの問題に感じて、実際には奥歯や上下の噛み合わせに原因があることがあります。部分矯正の適応は、前歯の見た目だけではなく、歯列全体と顎の位置関係を確認して判断します。

【下の歯だけの矯正が向いていない人】



次のようなケースでは、上下の歯を対象とする全体矯正を検討した方がよい場合があります。

- 上下の前歯が噛み合わない開咬がある
- 前歯の噛み込みが深い過蓋咬合がある
- 奥歯の噛み合わせに前後または左右のズレがある
- 骨格的な出っ歯や受け口が疑われる
- 歯を並べるスペースが大きく不足している
- 抜歯を含めた治療計画が必要と考えられる
- 下の歯だけを動かすと、上の歯との接触関係が悪くなる可能性がある

奥歯が正しく噛み合っているかどうかは、自分では判断しにくい部分です。「下の前歯だけを整えたい」と考えている場合でも、矯正相談では上下の歯と噛み合わせ全体を確認してもらいましょう。

【受診前のセルフチェック】

相談前には、次の点を確認しておくことで歯科医師へ希望を伝えやすくなります。

- 気になる場所は下の前歯だけか
- 奥歯を噛んだとき、左右均等に当たっている感覚があるか
- 上下の前歯を合わせたとき、大きなすき間や深い噛み込みがないか
- 出っ歯や受け口など、前後方向のズレも気になっていないか
- 過去に矯正治療を受けたことがあるか

これらはあくまで相談時に伝えるための確認項目です。セルフチェックだけで、部分矯正が可能だと判断することはできません。

【費用の目安】

部分的なマウスピース矯正は、全体矯正と比べて使用する装置の枚数や動かす歯の本数が少なくなるため、費用を抑えられる場合があります。ただし、同じ「下の前歯だけ」という希望でも、必要な移動量や噛み合わせの状態によって治療計画は変わります。

今村歯科・矯正歯科クリニックの公式サイトでは、矯正治療の費用について次の目安を案内しています。[3]

治療方法	費用の目安	期間・回数の目安
マウスピース矯正	30万円～60万円	半年程度、通院7～10回程度
モデレートインビザライン	50万円～87万円	1年程度が目安
フルインビザライン	87万円～98万円	症例によって異なる
部分矯正(ワイヤー)	7万円～30万円	症例によって異なる

公式サイトでは、モデレートインビザラインを前歯のみ、または小さな凸凹を整える治療として案内しています。下の歯だけの治療がどの区分になるかは、動かす歯の本数や治療計画によって異なるため、精密検査後の見積もりで確認してください。

また、歯並びを整えることを目的とした矯正治療は、多くの場合で健康保険が適用されない自由診療です。保険が適用されるのは、顎の手術を前提とした治療や指定疾患など、限られたケースです。[1]

費用を確認するときは、装置代だけでなく、検査料、診断料、調整料、保定装置代などが含まれているかも確認しましょう。掲載料金の税込・税別についても、相談時に確認しておく心安心です。

【治療期間と通院回数の目安】

下の歯だけの部分矯正は、動かす歯の本数が少ないため、全体矯正より短期間で終わられる傾向があります。ただし、治療期間は歯を動かす量、歯の動きやすさ、装置の装着状況によって変わります。

今村歯科・矯正歯科クリニックでは、マウスピース矯正の目安として半年程度、通院回数は7～10回程度と案内しています。また、部分矯正やモデレートインビザラインについては、1年程度を目安とする案内もあります。[3]

マウスピースの装着時間が不足すると、計画どおりに歯が動かず、装置が合わなくなったり、治療期間が延びたりする可能性があります。治療終了後も、歯の後戻りを防ぐ保定期間が必要です。

【下の歯だけ矯正するメリット】



下の歯だけの部分矯正には、次のようなメリットがあります。

- 全体矯正より治療範囲が狭く、費用を抑えやすい
- 動かす歯が少ないため、治療期間が短くなりやすい
- マウスピースは透明で目立ちにくい
- 食事や歯磨きの際に装置を取り外せる
- 気になる前歯の見た目を重点的に整えられる

ただし、これらは部分矯正の適応条件を満たしている場合のメリットです。費用や期間だけを優先して適応外の部分矯正を選ぶと、噛み合わせに問題が生じる可能性があります。

【デメリット・注意点】

下の歯だけの矯正では、前歯の見た目が整っても、噛み合わせ全体の問題までは改善できません。もともと奥歯の噛み合わせにズレがある状態で前歯だけを動かすと、上下の歯の接触関係が変わり、一部の歯へ負担が集中することがあります。

また、部分矯正では歯を動かせる範囲に限界があります。歯の重なりが強いケース、骨格的な問題があるケース、大きな抜歯スペースを閉じる必要があるケースなどは、全体矯正が必要になる可能性があります。

矯正治療で動かした歯には、元の位置へ戻ろうとする性質があります。治療後は、リテーナーと呼ばれる保定装置を使用して後戻りを防ぎます。装着時間や使用期間については、歯科医師の指示に従うことが大切です。

歯を並べるためのスペースが少し不足している場合には、歯と歯の間のエナメル質をわずかに整える「IPR」という処置を行うことがあります。必要性や削る量は歯の大きさ、歯列、検査結果によって異なります。処置の目的や知覚過敏などのリスクについて、事前に説明を受けましょう。

マウスピース型矯正装置には、日本の薬機法上、医療機器として承認されていない製品が使用される場合があります。医院で使用する製品名、承認状況、入手経路、国内の代替となる承認医療機器の有無、海外での安全性情報については、治療開始前に確認してください。[2]

【治療の流れ】



1. 矯正相談

気になっている歯並びや治療への希望、過去の歯科治療について歯科医師へ伝えます。

2. 精密検査

歯並びと噛み合わせを確認し、必要に応じてレントゲン・CT撮影、写真撮影、口腔内スキャンなどを行います。

3. 診断と治療計画の説明

検査結果をもとに、部分矯正の適応、使用する装置、治療期間、費用、リスクについて説明を受けます。全体矯正の方が適している場合には、その理由や違いも確認します。

4. 装置の作製と治療開始

治療計画に沿ってマウスピースを作製し、段階的に交換しながら歯を動かします。定期的に通院し、歯の動きや装置の適合を確認します。

5. 保定

歯並びが整った後は、リテーナーを装着して後戻りを防ぎます。保定中も定期的な確認が必要です。

今村歯科・矯正歯科クリニックでは、CT撮影や画像シミュレーションソフトを用いた治療計画を案内しています。[3] むし歯や歯周病がある場合には、それらの治療を先に行ってから矯正治療へ進むこともあります。

【よくある質問】

下の歯だけをマウスピースで矯正できますか？

奥歯の噛み合わせに大きな問題がなく、軽度のガタガタやすき間であれば、部分矯正を検討できる場合があります。噛み合わせ全体に課題がある場合には、上下の歯を動かす全体矯正が必要になることがあります。

下の歯だけ動かすと噛み合わせが悪くなりませんか？

現在の噛み合わせによっては、前歯だけを動かすことで上下の歯の接触関係が悪くなる可能性があります。治療前に奥歯を含めた噛み合わせを検査し、部分矯正が適しているか判断してもらうことが重要です。

治療期間はどのくらいですか？

歯を動かす量や本数によって異なります。今村歯科・矯正歯科クリニックでは、マウスピース矯正について半年程度、部分矯正やモデレートインビザラインについて1年程度を目安とする案内があります。[3]

費用に健康保険は使えますか？

見た目や一般的な歯並びの改善を目的とする矯正治療は、多くの場合で自由診療です。顎の手術を前提とする治療や指定疾患など、一定の条件を満たす場合に限って保険が適用されます。[1]

抜歯は必要ですか？

下の歯だけの部分矯正は、抜歯を必要としない軽度なケースが中心です。ただし、歯を並べるスペースが大きく不足している場合には、抜歯や全体矯正を検討することがあります。

装着時間を短くしても大丈夫ですか？

装着時間が不足すると、計画どおりに歯が動かない可能性があります。治療期間や仕上がりにも影響するため、食事や歯磨き以外は歯科医師から指示された装着時間を守りましょう。

【まとめ】

下の歯だけをマウスピースで矯正できるかどうかは、奥歯の噛み合わせと歯を動かす量によって決まります。軽度のガタガタやすき間であれば部分矯正を検討できる一方、噛み合わせ全体に課題がある場合には全体矯正が必要になることがあります。

費用や期間だけで治療方法を決めず、上下の歯と噛み合わせ全体を検査してもらうことが大切です。下の前歯の歯並びが気になる方は、精密検査をともなう矯正相談で、ご自身が部分矯正の対象になるか確認してください。

【参考資料】

[1] 公益社団法人日本矯正歯科学会「矯正歯科治療について」

<https://www.jos.gr.jp/about>

[2] 厚生労働省「医療広告ガイドラインに関するQ&A」平成30年8月作成

<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000644622.pdf>

[3] 今村歯科・矯正歯科クリニック公式サイト「矯正歯科」

<https://imamuradental.com/menu/ortho/>

[4] 今村歯科・矯正歯科クリニック公式サイト「医院紹介」

<https://imamuradental.com/clinic>

【監修者情報】



今村雄一郎

今村歯科・矯正歯科クリニック院長・歯科医師。日本大学松戸歯学部卒業、東北大学歯学部咬合回復科研修課程修了。顎咬合学会認定医、日本成人矯正歯科学会認定医。[4]

【公開前の確認事項】

- 費用、期間、通院回数が公開時点の医院案内と一致しているか
- 掲載料金が税込か税別か
- 使用するマウスピース型矯正装置の承認状況と必要な限定解除情報
- 部分矯正の適応、噛み合わせ、IPR、抜歯に関する医学的な表現
- 監修者の経歴と資格表記が最新情報と一致しているか